

運搬

牛耕と前後して西アジアのメソポタミアで発明され、私たちの生活に大きな影響を与えたのが車輪の発明です。押したり引いたりという重労働を円運動でスムーズに行うことができる車輪は、画期的なアイデアでした。車輪を取り付けた牛車は、牛耕によって生産された大麦や小麦といった穀物の運搬に用いられ、富の貯蔵・蓄積を可能としました。さらに、牛車を用いた運搬は、遠距離かつ大量な物資輸送を可能とし、交易の発達を促します。また、車輪が使用できない山道などでは、ウシの背に荷物が積まれ、交易に重要な役割を果たしました。ウシによる運搬により、これまでの自給自足的な生活が交換経済へと変容を遂げ、人類の文明や文化はますます発展してゆくことになります。

アジアの切手の中で、特徴的なものは、タイとラオスの牛車の切手でしょうか。実用的であるだけでなく優美なデザインとなっており、牛車だけで切手の主題となっ



日本 2003年 130円

ています。日本では、2003年に発行された切手（東海道五拾三次之内・大津）に荷物を運ぶ牛車が描かれています。実は、荷物運搬用の牛車は、江戸時代には京都・駿府・江戸・仙台と幕末の函館など大量の物資を輸送する必要がある限られた都市でしか使用が認められていませんでした。幕府は、人足と馬背による輸送を公的な輸送機関としていたことから、より便利な牛車と大八車の使用を制限し、伝馬町と馬持の保護にあたる必要がありました。車輛交通の未発達は、江戸時代の特色とされますが、それは馬を中心とする武家社会がもたらしたものでした。

中南米諸国では、サトウキビの運搬に用いられる牛車が多く描

かれています。ウシはもともと南北のアメリカ大陸には分布しておらず、植民地時代にヨーロッパから持ち込まれたものです。大規模な農業に伴う運搬に牛車は必需品だったのでしょう。主に熱帯や亜熱帯の地域ではプランテーションと呼ばれる単一作物の大規模農業が行われています。主な栽培作物は、サトウキビやコーヒー、バナナなどで、そのほとんどが輸出向けとなります。各国の切手の図案から、コスタリカではコーヒー豆、コロンビアではバナナの運搬に牛車を用いられていたことがわかります。

欧州では、収穫された穀物を運ぶウシが多く描かれています。1944年にナチス・ドイツの占領下で発行されたフランスの2+3フラン切手の図案では、麦の収穫が行われていますが、恐らくそのほとんどはドイツ向けのものでしょう。すべての作業が人力と畜力で行われていますが、背景の丘すべてが見事な農地となっています。



タイ（牛車）
1992年 2・10バーツ



コスタリカ 1937年 10セディテ



フランス 1944年 2+3フラン



コロンビア 1956年 25セターボ



ルーマニア 1947年 2000レイ



中華民国(台湾) 1969年 2.50ドル



日本(牛車) 1992年 80円

同年中にフランスのほぼ全土が開放されたため、この切手は11月1日に廃止されています。ルーマニアでは、第二次世界大戦が終結した翌年から続けて農業を取り上げた切手が発行されています。1946年の200+800レイ切手は農業革命を取り上げたシリーズの中の一枚であり、1947年の2000レイ切手の図案中の旗に記された「1 MAI」は5月1日、メーデーを記念する切手です。労働者の日ともいわれるこの日は、労働者が統一して権利を要求する日であり、図案は、牛車に農作物を積む作業風景です。このような切手が発行された背景は、食糧増産という現実的な理由だけではなく、農業こそが人々の日常生活そのものだからでしょう。

また、乗用の牛車も各地で図案として採用されています。台湾の2.50ドル切手の画題は、中国北宋

の都である開封の様子を描いた清明上河図の一部です。牛車には、多くの荷が積まれ、屋根には鶏が乗り、イヌとブタがつながれています。ウマを連れた人物もあり、家財のほとんどを運んでいるように見えます。当時の風俗研究には欠かせない資料です。日本でも絵画を部分的に切り取り、乗用の牛車を題材とした切手が複数発行されています。平安時代に都の貴族が使用していた牛車ですが、平泉藤原氏2代基衡が造営した観自在王院からも牛車の駐車場である車宿^{くるき}の跡が出土しています。武士の世になると姿を消した牛車は、貴族の威信財としての役割が大きかったと考えられます。

その他、イギリス領北ボルネオの切手は、一頭引きの轎であり、スイギュウの背に人が乗っています。アジアには、ウシやスイギュウの背に乗る文化があり、タイの

水牛レースは有名です。ポルトガルの50センターボ切手は、お酒が好きな人なら木の樽の中身がマデイラワインであることに気付くでしょう。ウシが引いているのが牛車ではなく、轎なのは、構造が単純で壊れにくいことと、重量物を積載しやすくするための工夫でしょうか。

現在は、乗用車やトラックなどに輸送の役割を譲りましたが、牛切手をみると、ウシが家畜化の初期の目的であった肉、乳、皮革などの畜産物を提供するにとどまらず、その役力(牽引力および駄載力)をもって役務に従事し、人類の文明や文化を発展させてきたことがわかります。ウシが切り開いた道が現在の私たちの生活を支えているといえそうです。



イギリス領北ボルネオ 1939年 1セント



ポルトガル 1968年 50センターボ

アジア地域



インドネシア
1964年 1ル



オランダ領東インド
1937年 10セント



シンガポール
1997年 5セント



タイ(牛車)
1992年 3・5バーツ

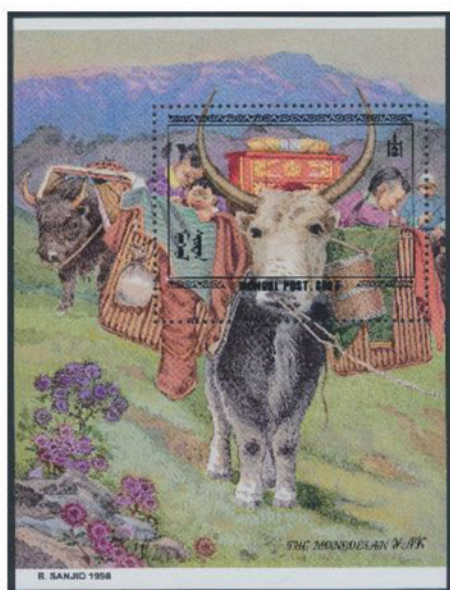




シンガポール 1997年 5・20・22・30・35・40・50・60・70セント 小型シート



マレーシア 2004年 2リギット 小型シート

モンゴル
1998年 800トゥグルク 小型シート〔×0.6〕ラオス
1967年 20+5・50+10・60+15キープ 小型シート〔×0.65〕

ラオス（牛車） 1996年 50キープ ×3

日本占領地ビルマ・シャン州
1943年 5セント 1944年 2セント

日本（牛車） 1966年 25円



日本 1968年 15円



日本 2001年 130円



日本 1974 年 50・20 円 初日加 - (FDC)



日本 (牛車) 1978 年 50・100 円 初日加 - (FDC)

大洋州地域



オーストラリア 1988 年 37 セント×5



オーストラリア 1989 年 39 セント×5

中南米地域



アルゼンチン 1964年 4ペソ



グアテマラ 1950年 3セントボ



アルゼンチン 2004年 75セントボ × 2 小型シート



トリニダード・トバゴ
1982年 70セント



ハイチ
1960年 20セentimes



パナマ
1942年 2セentimes



パナマ
1948年 2セentimes



パナマ
1950年 2セentimes



フォークランド諸島
1995年 17ポンド

欧州地域



アルメニア (牛車)
2001年 180ドラム



イタリア
1950年 60リラ



スペイン
1964年 40セentimes



スペイン
1981年 30ペセタ



ソ連
1933年 6コペカ



タンヌ・トゥバ
1934年 75コペイカ



チェコスロバキア
1971年 1.60コルナ



トリスタンダクーニャ
1954年 1ペニー



ハンガリー 1995年 22フォリント×3



ブルガリア
1917年 15スティンキ



マケドニア
1999年 4デナール



ユーゴスラビア
1981年 8デナール



ルーマニア
1946年 200+800レイ

アフリカ地域



ウルグアイ
1939年 20センチモ



ウルグアイ
1939年 75センチモ



ウルグアイ
1954年 1ペソ



ルワンダ
1969年 20サンチム



南アフリカ
1993年 65セント